

平成 21 年度第 5 回 サイバー・キャンパス・コンソーシアム
体育学グループ運営委員会 議事概要

- I. 日時 : 平成 22 年 1 月 15 日(金) 午後 2 時から午後 4 時まで
II. 場所 : 社団法人私立大学情報教育協会事務局 会議室
III. 出席者 : 鈴木委員、田附委員、手塚委員
井端事務局長、森下、恩田

配布資料

- (1) 名簿
- (2) 分野別教育「学士力考察」の報告・提言について
- (3) 分野別学士力の考察
- (4) 情報教育委員会及び分科会のイメージ
- (5) 分野別教育における情報教育の検討について
- (6) 委員検討案

IV. 検討事項

1. 事務局より、分野別学士力考察について報告

学士力の考察は昨年11月25日の第 53 回臨時総会で報告、その後に文部科学省、大学団体、学術会議、加盟大学の学長、学部長に報告を行なった。

私情協がいち早く現場の先生方の意見をまとめ、9000 人の現場の先生にもパブリックコメントを求めたうえで今後の参考となる考察をまとめたことは高く評価された。

2. 分野別教育における情報教育について

分野別教育における情報教育については基準となる到達目標が無かったため、検討できなかったが、今回の分野別学士力の考察を受けて、この達成に必要な情報教育について年度内に策定に取り組む旨説明があり、委員の合意を得た。

年度内にとりまとめを行い、次年度は情報教育研究委員会を発足、この委員会の意見も取りまとめていることが説明され、委員会及び分科会のイメージについて説明があった。

3. 本日の検討について

本日の委員会では作成した学士力を実現するために、学生に身につけて欲しい IT 活用能力、そのための教育方法を検討することし、具体的には、体育学の情報教育の到達目標、学生に身につけて欲しい情報活用力と技術力、知識、技能等と説明した。可能であれば、それを実現するための教育方法、教育内容、講義内容等も検討していただくこととなった。しかし、理工系などのエンジニアでなければ情報技術はあまり必要ではなく、ソフト等が利用できれば良い、体育固有のものというのは難しいと発言があり、フリートーキングで意見を出し合うこととなった。一部の意見を下記に記す。

- ・例として、以前まではホームページ作成はいろいろ知識が必要であったが、現在はブログ等が発達しているため、そのような知識・理解が必要なくなっている。
- ・新しい物を作るエンジニア以外には必要ない能力？

- ・データ解析等を行うときには、ソフトの活用の技術が必要となるので、理解は重要。
- ・情報教育は最近では大学全体的に初年度に行っているため、それをもとにすれば特には必要ない。
- ・体育は一般教養でもあるが、専門教育において教材を作るときには知識等が必要である。
- ・情報通信技術を作るのか、使うのかによる。
- ・身に付ける能力には体育固有のものはないため、特に固有のソフトが利用できればということはない。
- ・理工系はものづくりを行っているので必要であるが、体育や文系はあまり必要ではない気がする。
- ・情報通信技術では分析・解析は可能であるが、新しい技は人間の頭の中でしかできない。
- ・具体例として、イチローの動きをデータにして短時間で解析は可能である。
- ・基本的な情報を集めたりは学部レベルでできるが、解析・分析は大学院レベルである。
- ・最近ではデジタルで絵を描いたりするのは、小学生でも行っているため、必要な能力は大学入学時点で身につけている。
- ・エクセルの表計算は高校でも、大学でも行っていない。可能であれば、大学の講義で行って欲しいが、時間が足りないのが現状である。初年時教育で行うのが望ましいが、某大学では3年次で行っている。
- ・社会において情報通信技術は必要である。
- ・検索は最近の学生は得意だが、正しい情報であるのかの判断は難しい。
- ・某大学では入学時にはノートパソコンを各自持つことが義務付けられている。先生もパソコンを利用した講義をするように言われている。
- ・運動選手において、知識を吸収し、論理的に説明することができれば自身のフォームを分析し、飛躍的に能力を伸ばすことができる。
- ・情報通信技術の使い方が重要。
- ・正確に情報を捉え、理解するには観察が大切。
- ・今の学生はデジタル人間が多いため、観察が苦手である。部分的には観察ができるが、全体的に捉えることが難しい。

以上の意見と委員から事前に頂いた文案を基に下記の原案が作成された。

体育教育における情報教育について

到達目標1

身体に関する基本的な機能と構造の理解やライフサイクルの中で運動やスポーツに関する問題の発見と解決のために情報通信技術を活用できる。

到達度

- ① 身体や身体運動の測定値のデータベース化ができる。
- ② 考察するために過去の知見を適正なデータベースにアクセスして、検索できる。
- ③ 収集したデータの測定と統計・分析ができる。
- ④ 分析結果の考察を多様な情報通信技術を用いて効果的にプレゼンテーションできる。

到達目標 2

運動能力や競技力を高めるためのツールとして、また、スポーツと社会との関わりをマネジメントするために情報通信技術を活用できる。

到達度

- ① 分析されたデータと照らし合わせ、運動観察をすることができる。
- ② 競技力向上に関わるデータの測定と統計・分析ができる。
- ③ スポーツの振興と普及に向けた調査・統計・分析に情報通信技術を活用できる。
- ④ 分析結果から、情報通信技術を活用して運動やスポーツの企画・立案・実行ができる。

3. 今後の活動について

今回の原案を再度検討し、また教育内容・教育方法を検討していただくことになった。委員の予定が合わないため今回が本年度最後の委員会になるため、1月末までにメーリングリスト内で検討して頂き、2月に最終案をまとめていただくことになった。

- ・宿題 『体育学の情報教育について(継続)』
- ・宿題締め切り 1月末

以上